## 【新１万円札の肖像・渋沢栄一翁と修養団】

渋沢栄一翁は修養団の大恩人です。

明治４２年の６月に修養団を立ち上げたばかりの２７歳の蓮沼門三（修養団創立者）の熱意に押され面談をした渋沢栄一翁は門三の「愛と汗」の精神が、自分が常々提唱している「論語と算盤」の理念と同じであるという事で修養団を応援することを約束し、翌年には顧問に就任し、熱心に物心両面での支援をして下さいました。

さらに大正１４年には、より強力に修養団を応援しようと「修養団後援会」を設立し、自ら初代の後援会長に就任し、多くの企業に修養団運動を広めることに尽力してくださり、その後の修養団運動の大発展につながったのです。



渋沢翁（右）と蓮沼門三
（大正１５年１月撮影）

修養団本部の会議室には翁が揮毫した蓮沼門三の言葉「総親和　総努力」が飾られています。翁８９歳、亡くなる３年前に書かれたものです。




【総親和　総努力】は修養団創立者・蓮沼門三の言葉で、修養団は総親和総努力によって総幸福の世界の建設を願い「愛と汗」を信条に社会教育活動を行っています。